

沖縄県へき地教育研究大会公開授業及び国頭村訪問団視察

[北小の素敵さって…何だろう。]



本日は、県のへき地教育研究大会の公開授業である。国頭村からも教育委員会の手厚い配慮により私費の4名を含め13名での訪問となった。校長・教頭先生をはじめ、職員による温かなおもてなしを感じる学校視察と授業参観になりました。

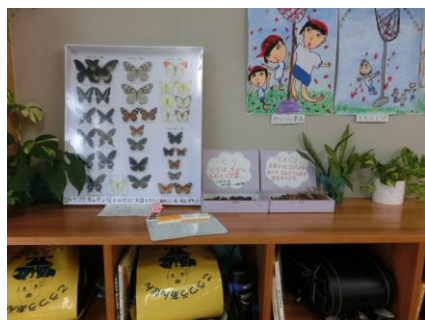
左の写真、ゴミのたまらないゴミ箱です。おもてなしや温かなお迎えは、派手にやることだけがよいのではない。きれいに静かに

迎えてくれたことに、しっとりした温かみを感じる。こちらも自然に遠慮深く慎んで低い姿勢になる。



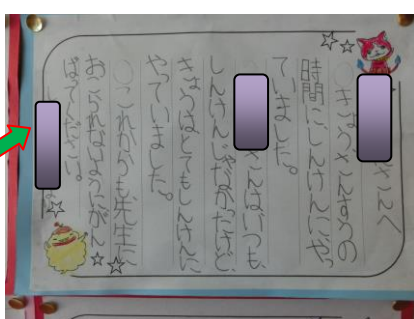
左写真は訪問者、中央の写真、深々と頭を下げる校長先生。「遠路はるばるご苦労さんです。」訪問に来た我々に向けられたけられたお辞儀です。素敵ですね。話を聴かせてもらうのはこちらです、この姿勢で迎えられたら・・・どうです。人の心(謙虚、温厚)は小さな行為で見ることができますね。

[教室が素敵] 教室はだれのためのもの。子どもの居場所として最適でありたい。



上の写真、1年・2年・3年の教室。季節や単元に合わせて教師が準備したものです。教師の手間と配慮が、子ども達に学習意欲を注ぎ、思考を深めることとなる。子ども達が大切にされていることが一目瞭然です。

中央の写真、描かれた子ども達の表情が抜群にいい、すべての子どもが笑顔である。上手い下手など関係ない、一心の力作をほめてあげたい。右写真、3年生の「すがたをかえる大豆」。毎朝子ども達が覗き込んでいる風景が見えます。下の写真、学校は「分からないこと」を学ぶところである、「できないこと」が仲間と一緒に「できるようになる」ことを喜ぶ場所であり、そのために子ども達は「間違いから」多くの真実を獲得していくのです。北小の先生方のベクトルが「子ども達のために・・・」向けられていることに感激です。



[1年1組] U先生 たし算(2) 今年度赴任



今年赴任の教師、本日の県へき地研で教室を開いた。多くの教師達に見守られ、子ども達は当然いくらかの緊張感を覚える。しかし、教師の表情がいい、この状況を子どもと一緒に乗り越えている。教師の表情が子ども達に「安心」を与えている。低学年はどうしても教師への依存度が大きい、自分がかんばったことは、まずは教師に認められたいものである。

下の2枚の写真、子どもがいかにか「先生」に認められたいか。男の子の視線も「先生これでいい?」。女の子は先生との距離を縮めて『聴いてもらいたい』のですね。受け入れてください。子ども達に安心を...



[2年1組] O先生 かけ算(3) 今年度赴任



教師の持ち味がある。「学びの共同体」3年目の「しっとり素敵な授業」がこの教室にある。写真右、授業中における気配りも確かなもので、子どもの発言中は、聴いている子どもの表情に常に視線が向けられていた。落ち着いたゆっくりとした授業者の言葉が「教室の柔らかな空気」を作り出す。

「対話と協同」以前の授業スタイルの壁を乗り越えた授業者の姿である。当初は不安と疑念でいっぱいであったが、何とかその時期を乗り越えて今年に至っている。授業者から不安さや疑念を抱きながらの容姿は全く伺えない。(国頭村教育長絶賛)

下写真、授業者のケアの様子である。寄り添い、手をさしのべ温かく見守る。下右写真、どうです、左の教師の姿と似ていませんか?...この教室では困った仲間を絶対に一人にはしません。教師の理念が子どもに模倣されているのではないだろうか。



[1年2組] K先生 たし算(2) 今年度赴任



「何でコの字なの?」、「座って授業する?」、「学びってなんなの?」...この不安と疑念をぜひ同僚と共有してほしい。初めての「学びの共同体」なので「分からない」が当たり前である。どんなに本を読んでも授業観察を繰り返しても自分にじっくりくるまでは、教師によって差がある。大切なことは他の先生と比べるのではなく、「私なりにすすみ行く。」ことが大切なのです。ただ1つブレてはいけないのが、北小の校内研の『理念』と『ビジョン』の実践へ向けられているかということです。「すべての子どもの『学び』の権利の保障」、「対話と協同による学習参加」「支え合う学級づくり」等、学びの共同体の理想は高く簡単ではない。それぞれの教師の尊厳や持ち味も大切にされなければならない。国頭でも名護でも全国でも、同じ境遇の教師仲間がたくさんいます。みんな「ゆっくりでいい、私なりに同じベクトルで進み行くこと」です。ご健闘祈ります。

[2年2組] U先生 かけ算(3) 今年度赴任



黒板を観てください。まじめで、一生懸命な授業者の姿です。今年赴任、「これでいいのかな?」不安は尽きないと思います。下の写真、先生に丸をせがむ子ども達、一番最初に認められたいのですね。分かってあげてください。左写真、遠慮なく聴き合う仲間達です。すばらしい。低学年はとにかくペアや仲間と向かい合い、協同的な活動に参加できることを目標にし、さらに子ども達が安心して「分からない」を訊ける空気を作り出すことが肝心です。

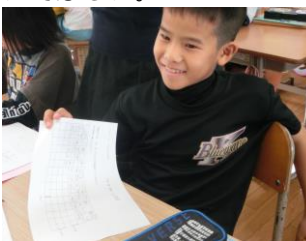
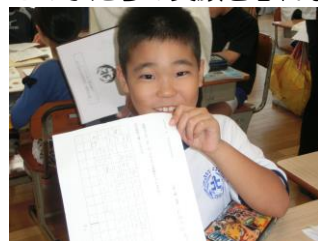


[3年2組] S先生 国語【説明文】



県へき地研の公開授業を引き受けてくれた。参観された先生方は子ども達の学び合う姿に感心したのではないだろうか。課題やテーマをグループ活動に下ろしたらすぐに違和感なく「聴き合う」「支え合う」が交わされる。2日間教室を見せてもらったが、見ている私が癒される空気が教室にある。

「わからない」「何で」「どうするの」子ども達の口から遠慮なく発せられる。面倒みのいい子もたくさんいる。グループや学級にチームとしての仲間の存在が大切にされている。下の写真、全く「分からなかった」二人の男の子である。…授業終末にこの笑顔である。この子たちの笑顔を忘れないでほしい。



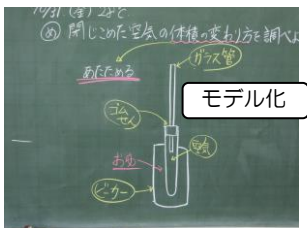
[3年1組] Y先生 今年赴任



休み時間にローカで戯れている。実に素朴な子どもらしさをもっている。オセロに夢中になっている子ども達もいた。休み時間でも子ども達の「私なりに」が許されることは大切である。自分らしさや、自分のペースを理解してあげたい。上右写真、体調不良を訴える女の子、仲間が教師につなぐ、寄り添い聴いてあげる教師の柔らかさに安心する。下の写真、こちらも課題がグループに下ろされると「分からない」が遠慮なく仲間に向けられる。今年赴任の教師である。不安や疑念を遠慮なく職員室の同僚と共有してほしい。3年生までの低学年は、学びの質よりも、とにかく「対話と協同的活動」に慣れさせることである。



[4年1組] S先生 理科 閉じこめた空気の体積を調べよう。



[4年2組] K先生 道徳の時間



【理科の授業における、対話と学びのタイミングやネタ】

- ① 仮説を問う・・・実験結果の予想をグループで話し合わさせる。
「予想」には必ず「なぜ」（予想の根拠）を問う。
- ② 仮説検証への筋道を問う・・・なぜこの実験か？実験で何が明かにされるか。実験の目的、検証の条件等。
- ③ 結論を言葉にする・・・授業者：「実験結果を今日の学習のキーワードを使ってノートにまとめてみよう。」
グループ内で聴き合い、自分の言葉でノートにまとめる。→（授業最終の共有へ）
- ④ 実験結果をモデル化する・・・図や絵、表やグラフで表現する。
理科学習は科学的現象、関係や関連性をモデル化することに思考力が問われる。

☆下の写真、理科の実験はみんな大好きである。ノーベル賞の皆さんもみんなこのレベルやプロセスを踏まえてきた。いつか北小からも…！



全く違和感なく聴き合っている。テーマがグループに下ろされると写真の通りである。
向かい合って仲間の考えを聴き合っている。決して言い合っているのではない。当然自分とちがう考えや意見には「なぜ？」が向けられるが「聴いて」受け入れられる。子ども各々の考えが尊厳されている。道徳の授業では「お互いの考え」のすり合わせが「学び」となる。それぞれの「生き方」に関わってくる大切な要素である。
仲間の生き方にまでは立ち入らない無言の気遣いがある。

[5 年 1・2 組] 算数少人数指導。等質で学年プールで 3 クラスに編成。

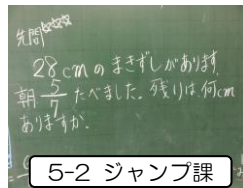
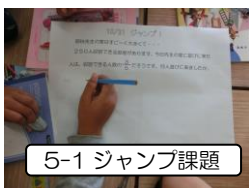


[2 枚の写真]



[分数×整数]

普通の授業では「5 分の 2 が 3 つあることですね。」から立式と理解に進むが…さすがである。両クラスとも、なぜ分母にかけてはいけないかが最初の問いである。教師のちょっとしたアイデアや閃きで思考が深まる。



「分母にかけると、15 分の 1 になるから 1 つ分の大きさが違ってしまふ。」説明する子どもである。当然この後の共有で「5 分の 2 が 3 つあることですね。」は簡単に理解された。中写真は、両クラスで子ども達に与えられたジャンプ課題である。下左写真は発表者に向けられる仲間達の眼差し、しっかり仲間の発表を支えることになる。下写真、身を寄せ合っってジャンプ課題に取り組む教室の仲間達、右写真、それぞれの答えを仲間で確かめ合っているところである。いずれのクラスも、学年をプールにして編成されたクラスであることに感激である。…来年へ確実につながる。

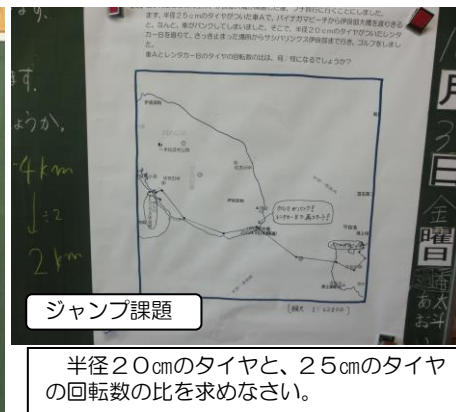
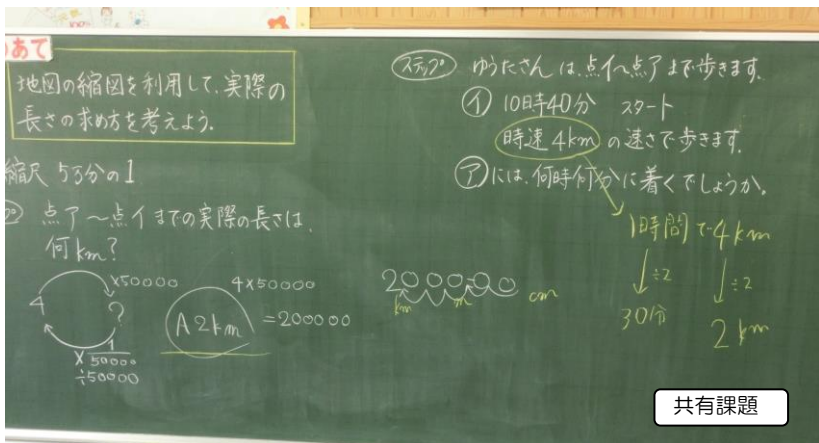


5 年 1 組、教師のつくえの下にさりげなく飾られていた。学校は、「分からないこと」を学び、今一人では「できない」ことが「できるようになる」ところである。

下写真、休み時間に 5 分の 3 を小数に直して計算。 $250 \times 0.6 = 150$ 人…を説明する仲間である。分からない子に寄り添う仲間。仲間は仲間で支える。この空気を大切にしたい。



[6 年 1 組] 算数 「時間・距離・速さ」 縮図を利用して距離を求める。



驚きの授業風景である。「速さ・時間・距離」の活用（応用）問題である。皆さんどう思います。私が教室に参観に行ったときにタイミングよくこのジャンプ問題が下ろされました（残り 15 分程度）。正直言って私も解の検討がつくまで結構時間がかかりました。右の写真は子ども達の「もがき」の後です。素晴らしい！

距離を求める→タイヤの円周を求める→回転数を求める→比を求める
さらに驚きなのは、教室の誰一人「あきらめない」のである。むしろ難題であることや、簡単には解けないでいる状況の「もがき」を楽しんでいるかのように私には思えた。下の 3 枚の写真は授業終了後である。どうです。

